

みずほマーケット・トピック(2022年2月25日)

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

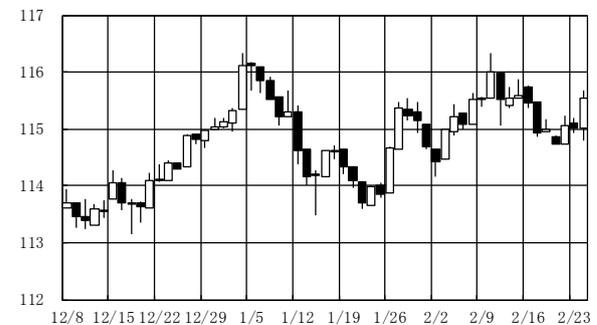
1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円相場は週後半に急上昇した。週初21日、114.95円付近でオープンしたドル/円は東京時間に米露首脳会談開催の報道を受け上値を伸ばすも、海外時間に入りウクライナ情勢の緊迫化が再燃、114円台後半まで反落。その後は米国市場が休場の中、動意に乏しい展開となった。22日、ドル/円はオセアニア時間に下値を切り下げても、その後はじり高の展開となり、米2月総合PMIが市場予想を上回ったこともドル買いの支援材料となり一時115円台前半まで上昇した。23日、ドル/円は東京市場が休場で薄商いの中、米長期金利や欧米株の動き、ウクライナ情勢関連の報道に左右され115円付近での上下動、狭いレンジでの方向感に欠ける値動きとなった。24日、ドル/円はロシアによるウクライナ侵攻に地政学リスクが高まり、リスク回避の円買いの動きが活発化し欧州時間に一時週安値の114.41円まで急落した。その後は米1月シカゴ連銀全米活動指数や米新規失業保険申請件数の良好な結果にドル買いが加速、ユーロ/ドルの下落もあり、一時週高値の115.69円まで急伸した。本日のドル/円は週高値水準での取引が継続している。
- 今週のユーロ/ドル相場は週後半に急落した。週初21日、1.1315付近でオープンしたユーロ/ドルは米露首脳会談双方合意の報道を受け地政学リスクが後退し、一時週高値の1.1391まで上昇も、プーチン露大統領のウクライナ親ロシア地域の独立承認の動きから地政学リスクが再燃し、1.13台前半まで急落した。22日、1.13を挟み揉み合い推移していたユーロ/ドルは、欧州時間に独2月IFO企業景況感指数の結果が好感され一時1.13台半ばまで上値を伸ばすも、その後はじり安の展開となった。23日、ユーロ/ドルは欧州時間に1.13台半ばまで上昇したが、独3月GfK消費者信頼感指数の冴えない結果に1.13ちょうど付近まで反落し、一進一退の値動きが継続。24日、ロシアのウクライナ侵攻を背景に世界的なリスク回避の動きが加速する中、ユーロ/ドルは20年6月以来の安値となる1.1106まで急落。売り一巡後は買い戻され、1.12台前半まで値を戻した。本日のユーロ/ドルは1.12を挟んでの取引となっている。

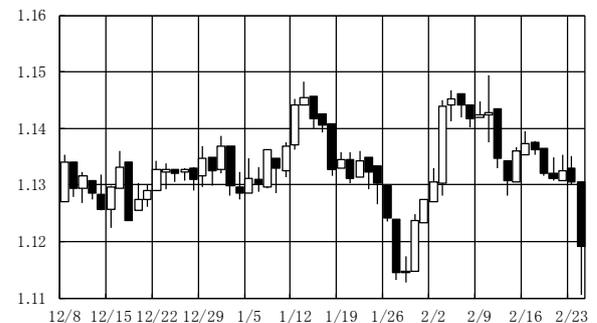
今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		今 週				
		前週末 2/18(Fri)	2/21(Mon)	2/22(Tue)	2/23(Wed)	2/24(Thu)
ドル/円	東京9:00	114.86	114.97	114.62	115.10	114.90
	High	115.30	115.11	115.24	115.20	115.69
	Low	114.79	114.72	114.50	114.93	114.41
	NY 17:00	115.00	114.72	115.06	115.01	115.55
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1364	1.1317	1.1310	1.1330	1.1305
	High	1.1377	1.1391	1.1367	1.1359	1.1309
	Low	1.1314	1.1307	1.1288	1.1301	1.1106
	NY 17:00	1.1320	1.1311	1.1326	1.1305	1.1192
ユーロ/円	東京9:00	130.55	130.07	129.62	130.41	129.94
	High	131.10	130.87	130.76	130.71	130.03
	Low	130.21	129.75	129.36	129.95	127.92
	NY 17:00	130.30	129.75	130.33	130.03	129.34
日経平均株価	27,122.07	26,910.87	26,449.61	-	25,970.82	
TOPIX	1,924.31	1,910.68	1,881.08	-	1,857.58	
NYダウ工業株30種平均	34,079.18	-	33,596.61	33,131.76	33,223.83	
NASDAQ	13,548.07	-	13,381.52	13,037.49	13,473.59	
日本10年債	0.21%	0.21%	0.19%	-	0.19%	
米国10年債	1.93%	-	1.94%	2.00%	1.97%	
原油価格(WTI)	90.21	-	91.91	92.10	92.81	
金(NY)	1,899.80	-	1,907.40	1,910.40	1,926.30	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 米国では、1日(火)に2月ISM製造業景気指数、3日(木)に2月ISM非製造業景気指数が発表される。1月の結果はそれぞれ57.6、59.9となった。製造業は12月と比較して1.2ポイント下落した。その要因として需要は堅調であるが、新規受注指数と受注残指数に落ち着きが見られつつあることが挙げられる。供給制約に関しては物流状況を示す入荷遅延指数が0.3ポイントの低下に留まり、目立った改善は見られなかった。一方で雇用指数は54.5と5か月連続で上昇し、労働者不足も持ち直しつつある点が報告された。また、非製造業は過去最高の結果を記録した1月から2.4ポイント悪化したが依然高水準を維持。内訳をみると製造業よりもオミクロン株拡大の影響を受け需要がやや減速した格好となった。なお、ブルームバーグの予想では、2月の結果をそれぞれ58.0、60.9としている。経済指標関連ではこの他、4日(金)に2月雇用統計が公表予定となっている。また、政治関連では1日(火)にバイデン大統領の一般教書演説が予定されており、ウクライナ情勢や対中関係に関する発言に注目が集まる。中銀関係では2日(水)～3日(木)にパウエルFRB議長が議会証言を実施する。
- 欧州では2日(水)に2月消費者物価指数(HICP、速報)が公表予定である。1月の結果は前年比+5.1%となり、2か月連続で過去最高を更新した。当初21年下半年はドイツの付加価値税減税の反動から一時的にHICPを押し上げられている部分大きいとされ、それが完全に剥落した22年1月以降、HICPは減速の見込みであったが、足許では原油価格を筆頭として資源高の押し上げが強まる状況となっている。同時に政策理事会メンバーの反応にも注目が集まる。現状、ECBはタカ派傾斜の加速には慎重と見られ、ラガルド総裁は供給制約由来のインフレは金融政策で対応できないと発言した他、ビルワロドガロー仏中銀総裁も政学的な緊張がインフレや経済成長に与える間接的な影響を評価の上、柔軟に金融政策を検討すべきとの見解を示している。なお、ブルームバーグの事前予想では2月HICPを同+5.3%としている。

	本 邦	海 外
2月25日(金)	・12月景気動向指数(確報)	・ユーロ圏2月消費者信頼感指数(確報) ・米2月ミシガン大学消費者マインド(確報) ・米1月耐久財受注(速報)
28日(月)	・1月小売売上高	・米1月卸売在庫(速報)
3月1日(火)	・2月製造業PMI(確報)	・ユーロ圏2月製造業PMI(確報) ・米2月ISM製造業景気指数 ・米バイデン大統領一般教書演説
2日(水)	・10～12月期設備投資	・ユーロ圏2月消費者物価指数(速報) ・米2月ADP雇用統計 ・米パウエルFRB議長議会証言(3日まで)
3日(木)	・2月非製造業PMI(確報)	・ユーロ圏2月非製造業PMI(確報) ・米2月ISM非製造業景気指数
4日(金)	・1月有効求人倍率/失業率	・米2月雇用統計

【当面の主要行事日程(2022年3月～)】

ECB政策理事会(3月10日、4月14日、6月9日)

FOMC(3月15～16日、5月3～4日、6月14～15日)

日銀金融政策決定会合(3月17～18日、4月27～28日、6月16～17日)

市場営業部・金融市場部
チーフマーケット・エコノミスト
唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2022年2月24日	年初来の為替市場総括～円キャリー取引復活の兆候？～
2022年2月22日	孤立する日本株市場～「新しい資本主義」の誤解？～
2022年2月21日	ECB利上げの有無について～非公式政策理事会を前に～
2022年2月18日	週末版(「50年ぶりの円安」が意味するもの～「経済より命」路線の結末～)
2022年2月17日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年1月分) 円相場の構造変化～変わる基礎収支の姿～
2022年2月16日	ラガルド講演を受けて～認める金融政策の無効性～
2022年2月15日	本邦10～12月期GDPを受けて～依然大きな内外格差～
2022年2月14日	「開始前から終盤」の様相を呈するFRBの正常化プロセス
2022年2月10日	週末版(ウクライナ問題～ドイツの自傷行為は止まらないのか～)
2022年2月8日	為替は金利の代わりに政治へアラームを鳴らすか？
2022年2月7日	米1月雇用統計～労働参加率上昇にも注目すべき～
2022年2月4日	週末版(ECB政策理事会を終えて～利上げは最速7月か？～)
2022年2月2日	沈む円相場の全体感と日本の現状
2022年2月1日	オーバーキル懸念が色濃くなる米国経済
2022年1月28日	週末版
2022年1月27日	FOMCを終えて～いつまで株価を無視できるか～
2022年1月26日	IMF見直し改定について～リスク満載の世界経済～
2022年1月25日	孤立感が強まるドイツ～シオルツ政権の迷走～
2022年1月24日	夜明けは近いのか、遠いのか～鳴かないカナリア～
2022年1月21日	週末版(インフレに変化を強いられそうなECBの政策姿勢～ドイツ10年金利は約3年ぶりにプラス圏へ～)
2022年1月20日	米実質金利上昇とドル相場への影響
2022年1月19日	日銀金融政策決定会合～「悪い円安」をどう処理するか～
2022年1月18日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2021年12月分) 続きそうな「日本回避」～「市場の声」は届くのか～
2022年1月17日	既に漂うオーバーキル懸念～「最後のテーマ」は？～
2022年1月14日	週末版
2022年1月13日	円安と物価高と国民感情の近況について
2022年1月12日	「嵐の前の静けさ」を警告するIMF
2022年1月11日	信じて貰えないECBのハト派姿勢
2022年1月7日	週末版(FOMC議事要旨を受けて～「正常化レースの進捗」≠「為替の進捗」～)
2022年1月5日	欺瞞を晒したEUの天然ガス・原子力グリーン認定
2022年1月4日	2022年、円安・ドル高シナリオの死角は「日銀の正常化」か？
2021年12月28日	2022年の為替概観②～「2つの正常化」と新興国～
2021年12月27日	2022年の為替概観～2つの「正常化」が作る世界観～
2021年12月24日	週末版
2021年12月23日	円相場の近況～5年ぶり値幅、最低の取引量、感染拡大～
2021年12月22日	無視はできない需給面のドル安リスク
2021年12月20日	2021年に浮上した「悪い円安」論を再考する
2021年12月17日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「ラガルド・バズーカ」と利上げ見通し～)
2021年12月16日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2021年11月分) FOMCを受けて～今度はインフレが「一時的」であるリスク？～
2021年12月15日	「安い日本」を体現するアパレル生産日本帰郷報道
2021年12月13日	41年ぶりの企業物価上昇～圧迫される企業収益～
2021年12月10日	週末版(いきなり外交的試練に直面するドイツ新政権～北京五輪という「踏み絵」～)
2021年12月8日	2022年も「日本回避」がテーマか～首相演説を受けて～
2021年12月7日	過去最大のインフレ率を前にECBはどう動くか
2021年12月6日	弱い雇用統計とFRBの正常化プロセスについて
2021年12月3日	週末版(FRBの政策運営をどう考えるか～本邦の正常化プロセスは23年以降に～)
2021年12月2日	変節し始めたECB～減らないPEPP、隠れる本音～
2021年11月29日	アフター・メルケル政権誕生へ～新連立の見どころ～
2021年11月26日	週末版
2021年11月25日	再び浮上する「含意なき離脱」リスク～6年目の混乱～
2021年11月24日	ドル/円、115円台突破を受けて～色濃い日本回避～
2021年11月22日	欧州の感染再拡大の影響をどう見るか？
2021年11月19日	週末版
2021年11月17日	10月貿易統計を受けて～補強される円安シナリオ～ 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2021年10月分)
2021年11月16日	不安視される米消費者心理の悪化
2021年11月15日	今年2度目のマイナス成長となった日本
2021年11月12日	週末版(本邦10月国内企業物価指数を受けて～可視化され始めた円安&資源高の怖さ～)
2021年11月11日	ドル/円相場、5年ぶりの値幅は大相場の前兆か？
2021年11月10日	欧米7～9月期GDPについて～大きすぎる日本との格差～
2021年11月9日	FOMCと米10月雇用統計を受けて～今後の見方～
2021年11月5日	週末版
2021年10月29日	週末版(ECB政策理事会を終えて～冷静なインフレ分析と盛り沢山の12月会合～)
2021年10月28日	2%を突破したユーロ圏のインフレ期待と利上げの今後
2021年10月26日	供給制約下の利上げは正当化されるのか？
2021年10月25日	ECB政策理事会プレビュー～12月に向けた露払い～
2021年10月22日	週末版(ドイツメンバー、4度目の退場～バイトマン独連銀総裁の辞任報道を受けて～)
2021年10月20日	本邦9月貿易収支を受けて～需給も円売り材料に～
2021年10月19日	ドイツ連立政権発足へ前進～クリスマス前にも？～
2021年10月18日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2021年9月分) 欧州委員会、初のグリーンボンド発行を受けて
2021年10月15日	週末版(IMF秋季世界経済見直し(WEO)を受けて～世界とは別次元の日本の悩み～)
2021年10月13日	円安に蝕まれる日本経済の現状
2021年10月12日	現実味を帯びるECB正常化、日銀にも好機
2021年10月11日	米9月雇用統計を受けて～既定路線の修正には至らず～
2021年10月8日	週末版(ECB政策理事会議事要旨(9月9日開催分)～争点は「PEPPの次」へ～)
2021年10月7日	インフレ高進を考える～「目の生活」vs「地球の気温」～
2021年10月5日	交易条件の悪化に蝕まれる日本経済
2021年10月4日	岸田政権に求められる「新規感染者主義からの脱却」
2021年10月1日	週末版
2021年9月30日	ドル/円の年初来高値更新と岸田新政権への期待
2021年9月28日	次期ドイツ政権が直面する課題②～域内再分配～
2021年9月27日	次期ドイツ政権が直面する課題①～対中関係～
2021年9月24日	週末版(FOMCを終えて～既定路線と化した「22～23年の利上げ」～)
2021年9月22日	恒大問題の現状整理～2つのポイントで理解する今後～
2021年9月21日	ドイツ総選挙直前プレビュー～政治空白は必至か～